

二見こども園について

0 歳から就学前の乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、子どもたちは、生活や遊びなどの直接的な体験を通して、情緒的、知的な発達、社会性を養い、人として、社会を構成する一員として、より良く生きるための基礎を育む重要な時期である。

本市では、乳幼児期の重要性を踏まえ、幼稚園と保育所の所管を超えて、同じ視点に立った教育・保育を実施し、就学前教育・保育を一体的に行うことを目指して、既存の幼稚園と保育所を一体化し、平成 28 年 4 月に幼保連携型認定こども園「二見こども園」を開園した。

1. 二見こども園の概要

項目	幼稚園部分	保育所部分
利用対象	就労等の制限なし 園区内に住所がある児童	就労や病気などのため家庭で保育ができない保護者
年 齢	3～5 歳児	0～5 歳児
保 育 時 間	原則、朝～昼(4 時間程度) 預かり保育あり(16 時まで) ※8 時から 18 時までに延長予定	保護者の状況に応じて「保育標準時間」(最大 11 時間)又は「保育短時間」(最大 8 時間)に認定。延長保育あり。
定 員	3 歳児は定員 20 名 4～5 歳児は原則、希望者は入園可能	0～5 歳児、年齢別に定員あり
児 童 数 (H29.4)	3 歳児 20 名、4 歳児 24 名、5 歳児 33 名 計 77 名	0～1 歳児 16 名、2 歳児 17 名、3 才児 20 名、4 歳児 23 名、5 歳児 20 名 計 96 名
保 育 料	市立幼稚園と同様	認可保育所、地域型保育事業所と同様
保 育 形 態		0～2 歳児は保育所部分児童のみのクラス編成 3～5 歳児は幼稚園部分と保育所部分児童の混合クラス編成
給 食	自園調理による給食	

2. 現状と課題

(1) 子どもの育ちについて

【現状】

- 3～5 歳児が 2 クラスとなったことで、クラス同士を意識するといった刺激的な環境となり、人と関わる力の育ちに繋がっている。
- 0～5 歳児が同じ施設で生活することで異年齢の関わりにより「年長児への憧れ」や「小さき者へのいたわり」などの豊かな育ちに繋がっている。
- 多様な家庭環境の子どもたちが共に生活することで、互いの相違点に気付き、受け入れる順応性が育っている。
- 施設が広くなり体を動かす様々な遊びや活動ができるため、健やかな体の育ちに繋がっている。
- 保護者の就労状況の変化で、幼稚園部分利用の園児が保育所部分に変更となった場合でも転園の必要がないことから、園児は同じ環境で生活できるとともに、保護者の安心に繋がっている。

【課題】

- 登降園時間や集団生活の経験が異なる園児が同じクラスに在籍していることで、これまでとは異なる保育者のクラス運営の視点を持つことや職員間の細かな情報共有が必要である。

(2) 保護者や地域活動、子育て支援について

【現状】

○幼稚園のPTA組織はこども園に引き継がず、こども園化の前年度に保護者と園で保護者組織の在り方について検討を重ね、開園後の平成28年度に「二見こども園PTCA準備会」を設置した。1年間の試行を経て、平成29年度は「二見こども園PTCA」として活動を行っている。主な活動は、地域会合への参加、地域のパトロール等。絵本の読み聞かせなど有志による活動も行っている。子どものために保護者と園が共に取り組んでいる。

〔参考〕平成29年度加入者数126人／176人

※PTCAとは、Parent（親）、Teacher（先生）、Community（地域）、Association（会）の頭文字をとったもので、PTAに地域住民が加わった「親と先生と地域住民の会」のこと。

○保護者ニーズに関しては、1年目は幼稚園部分・保育所部分の双方の保護者が「以前は出来ていたことがこども園になって出来ていない」と感じ、園に苦情として寄せられることもあったが、2年目を迎えるにあたり、アンケートの実施や保護者との意見交換会を通して「こども園」としての運営に少しずつ理解・協力が得られるようになってきている。

○子育て支援については、施設が広がったことで園庭開放等が行いやすくなっている。

【課題】

○幼稚園部分・保育所部分のそれぞれの保護者の生活スタイルを理解し、無理のない保護者組織を構築していくにはまだ時間を要する。園と保護者が目指す方向性を共有し、今後も活動を通して、よりよいPTCAの在り方について検討を重ねる必要がある。

○保護者ニーズであっても園児にとってどうかという視点で、こども園の教育・保育を保護者に周知する工夫が必要である。

○地域の子育て支援の拠点となるよう、内容の充実が必要である。

(3) 職員について

【現状】

○勤務形態は、開園時間（7:00～19:00）を踏まえローテーション勤務を実施。ローテーション勤務は、保育時間の長い児童に関わるため、保育の充実や保護者の安心につながっている。

○研修・研究は、3年計画で同じ学識経験者から園内研究の指導を受けることにより二見こども園ならではの教育・保育の確立を目指している。今年度は2年目で3～5歳児の保育を中心に協議をすすめている。認定こども園の職員は幼稚園・保育所双方の研修会に参加できるため、より研修の機会に恵まれている。

【課題】

○質の高い保育の提供や保護者との信頼関係の構築に向けては、職員間の連携や情報の共有が課題である。会議の持ち方や情報伝達方法など、より一層の工夫が求められる。

○幼稚園、保育所双方の施設が大切にしてきたことは尊重しつつ、こども園としてどうかという職員の意識改革が必要である。

3. 今後について

二見こども園では、短時間保育と長時間保育の園児の互いの育ちが融合し、良い影響を与え合っている。様々な家庭環境の子どもが、同じ活動を通して関わり合い、支え合えることは、小学校以降の学びに結びつくものであり、大きな成果と考えている。また、保護者の就労状況等が変化をしても子どもは同じ園で生活できることは子どもの育ちと保護者の安心の両方に寄与している。

今後、日々の実践や研究等により、教育・保育内容が一層磨かれるよう、運営面の検討を行うとともに、子育て支援の充実が課題である。平成30年度より施行される幼保連携型認定こども園教育・保育要領に沿い、質の高い教育・保育の提供に努めていく。